

# インタビューから受けるスポーツ選手の好感度に関する研究

増岡 れおな (競技スポーツ学科 スポーツビジネスコース)

担当教員 片上 千恵

キーワード：フォーカスグループインタビュー，好感度，ELM 理論

## 1. 緒言

運動部・スポーツ系サークル・文化系サークルに所属する男女ごとでスポーツ観やライフサイクルへの意識には違いが出てくることが明らかにされている(澤井, 2004). そこで同じスポーツ選手のインタビューを見た場合でも, 自身にスポーツ経験のある人とない人では受ける印象や好感度に違いがあるのだろうか. 本研究は, 大学生がスポーツ選手のインタビューからどのような特徴に惹かれ, その要因はスポーツを行う学生とそうでない学生の間では差があるのかを明らかにすることを目的とする.

## 2. 研究方法

フォーカスグループインタビュー

[調査対象者] (4人1グループ×4回)

1) 関西の大学運動部に所属している学生 男子4名, 女子4名

2) 関西の大学運動部, 運動サークルに所属していない学生 男子4名, 女子4名

[質問項目]

- ①映像から感じた選手に対する第一印象
- ②田中選手, 平山選手の容姿について
- ③田中選手, 平山選手の話の内容について
- ④今後ファンを増やしていくためにはどうすべきか

[分析方法]インタビューを文字化し, キーワードを抽出する. そこから KJ 法を用いてグルーピングし ELM 理論を参考にしながら分析する.

## 3. 結果と考察

フォーカスグループインタビューによる結果	注目点	好感	嫌悪感
スポーツをしている男子	話の内容	自信を感じさせるコメント	自己アピール不足 謙虚すぎる姿勢
スポーツをしている女子	話の内容	感謝の気持ち ファンへの思いやり	自身過剰なコメント
スポーツをしていない男子	話の内容	親近感のわく容姿やコメント 私生活で参考に出来るような話	スポーツの専門的な話
スポーツをしていない女子	容姿	顔の整い方・服装へのこだわり	好感を抱けない顔・服装

スポーツをしている男子は「スポーツマンとしてのカリスマ性がある」「自分のスタイルがある」などのコメントが多いことから, 自分たちの憧れる理想の選手像であって欲しいという思いが感じられた. スポーツをしている女子は「話に一人一人のドラマが無くて面白くない」などの言葉から男子と同じく理想の選手像であって欲しいと思っはいるが, 単なる憧れとして見ているのではなく, インタビューから参考に出来るようなことを学ぼうとしていると考えられた. スポーツをしていない男子は自身がスポーツをしていなくても, スポーツについての知識・情報が元々多い事から話の内容に注目していたと考える. スポーツをしていない女子は容姿に関するコメントがほとんどであった事から, スポーツの専門的な内容にはあまり興味がなく, 第一印象で顔や容姿に好感を持ってないと, その後の選手の話も耳に入っていない傾向が見られた.

## 4. 結論

結果から, 実際にスポーツをしている人とそうでない人とは好感度を抱く要因には違いが見られた. それぞれを ELM 理論と照らし合わせると, スポーツをしている男子としていない男子は中心的ルートにより好感を抱き, スポーツをしていない女子は周縁的ルートにより好感を抱いていた. スポーツをしている女子は初めに周縁的ルートで判断し, その印象を踏まえた上で中心的ルートで判断していることが分かった. 男女の差としては, 男子はスポーツに関する情報が元々多い事から, 話の内容に関するコメントが多く見られ, 女子は見た目の第一印象を重要視する点では共通していた.

## 引用・参考文献

澤井和彦 (2004) 大学生のスポーツ活動と意識生活に関する調査研究. p 385. 386